

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071200622		
法人名	社会福祉法人 怡土福祉会		
事業所名	グループホーム怡土		
所在地	福岡県福岡市西区徳永1065-1 (電話) 092-807-7576		
自己評価作成日	平成22年12月22日	評価結果確定日	平成23年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者とのコミュニケーションに力を入れている。当ホームでは、入居の皆様が毎日ホールに集まり、談笑したり、レクリエーションなど、それぞれ思い思いに楽しい時間を過ごされている。また、自然環境にも恵まれており、散歩や外出をし四季折々に触れる事ができる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成23年1月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所周辺は再開発が進む一方で、海や山が近く田畑も広がり、四季が感じられる環境にある。職員は、利用者と積極的にコミュニケーションを取ることを大きな目標にし、全職員で作り上げた理念は、生活に密着した平易で具体的な言葉で表現され、事業所内の一番目立つ場所に大きく見やすく掲げ、日頃から理念の確認と共有を行い、利用者「一人ひとりを尊重し」、利用者「和気あいあい」と「地域の一人として生き甲斐ある暮らし」の支援に、職員一体となって取り組んでいる。事業所は、母体法人である病院の「地域への還元」の思いを体現し、利用者・職員・地域の人々の作品展示会開催を始め、地域との交流を日常的に行う等、理念が反映された更なるケア向上が期待される事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりを尊重し和気あいあい。地域の一人として生きがいのある暮らしが出来る」を理念に掲げている。管理者や職員は理念を共有し日々実践に努めている。	全職員でつくりあげた事業所独自の理念に、地域密着型サービスの視点が含まれている。職員は日常的に理念を確認して実践について話し合い、言葉かけや態度等、日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	作品展開催時、地域の方にも作品を出展して頂いたり、毎年しめ縄作りも指導していた。また近隣農家の芋掘りに参加し交流を深めている。毎年2校中学生の福祉体験、職場体験の受け入れもやっている。	地域の清掃活動等の地域活動へ参加し、また事業所で行う夏祭りや文化祭に地域住民を招待し参加がある等、地域との交流に努めている。また、地域住民から芋掘りに招待される等、日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の方と地域高齢者等の暮らしに役立つ事がないか運営推進会議の中で話しあっている。今年初めて地域の清掃活動に参加し、地域へ貢献することが出来た。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施状況や行事予定を報告し、出席者の方々からの質問意見要望等を受け参考にし、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。利用者やサービスの現状、外部評価への取り組み状況等を報告している。委員からは地域との交流等について意見をもらい、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員の方へ事業所の実情や、ケアサービスの取り組み状況を伝えアドバイスを頂いている。	管理者は、日頃から行政や地域包括支援センター窓口へ出向き、また電話で事業所の現状報告・相談等を行い、協力関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等で学び正しく理解している。3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会にて話合い、身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、定期的に内部研修を行っている。研修記録・報告書等がある。玄関は、やむを得ず家族等の了承を得て施錠している。職員は施錠の弊害を理解し、利用者の外出傾向等を十分に把握して、玄関前に立つ利用者がいれば直ちに解錠し、見守りや付き添い等を行っている。	施錠以外での工夫や対応を検討し、鍵をかかないケアを実践してほしい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を勉強会で学んでおり十分に理解している。虐待のない介護を日々実践している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議時に地域包括支援センター職員の方より説明を受けたり、研修会等でも学んでいる。家族の方には情報提供を行っている。	職員は、内部・外部研修に参加して制度について学ぶ機会があり、その他の職員へは伝達研修を行っている。パンフレット・研修記録・報告書等がある。利用者・家族等へは、契約時や必要に応じて制度について説明している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用料金、事業所のケアに関する考え方、退去後を含めた対応可能な範囲について説明を行い、その都度、不安や疑問点等尋ね対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の会長の発案により、施設内に意見箱を設置している。苦情解決要綱に苦情解決第三者委員会を置き、苦情処理に際して出来る旨を説明している。家族の面会時や随時利用者の方にも意見等を聞くようにしている。出された意見については管理者、全職員で話し合い運営に反映できるよう努めている。	利用者・家族等の意見は、意見箱を設置し、また、日々のケアの中や家族来訪時等に積極的に声かけして聴取するよう努めている。また、年3回開催する家族会での意見等で、食事支援のあり方を見直す等、意見や要望を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を行っている。また、個別の意見相談も随時聞き、反映させている。	管理者は、ミーティング時等、定期的に職員の意見や要望を聴取する機会を積極的に設け、業務分担の改善等、意見を運営に反映している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、労務条件についてのアンケートを実施し、把握した上で整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	高齢者、障害者雇用については、実績もあり、採用対象となっている。また、定年再雇用制度を取り入れており、社会参加や自己実現の権利は十分に保証されている。	職員の採用にあたっては、性別や年齢等の理由で排除しないようにしている。また本人の能力が発揮できる職場環境を目指し、職員が資格取得できるよう支援している。定年後に嘱託制度があり、本人が希望すれば引き続き働ける環境を整備している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発活動研修に参加し、内部研修を行っている。	職員は、人権に関する内部・外部研修に参加している。人権に関する研修記録、報告書等がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の際に、職員一人ひとりの介護知識バランスを考慮し、受講を励行している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他県のグループホームと交流があり、職員の体制や利用者処遇など疑問が生じた場合は、随時情報収集を行い、サービスの質の向上に努めている。近隣グループホームへの相互訪問は、3～4月に予定している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の生活状況を把握し、また心身の状態や思いに向き合い、会話を重ねる中で、本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事、要望などを拝聴し、事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思いや状況等を確認し、必要としている支援を見極め、場合によっては他の事業所等を紹介する事もある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、日々の生活の中で利用者から教えてもらう場面もあり、また、優しい言葉をかけてもらう事も多い。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを伝える事で、家族と同じような思いで支援している。来訪時はご本人と家族がゆっくり過ごせるよう心掛けている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの方が訪ねて来られたり、本人の逢いたい人や場所など、家族にも協力を得て実現できるよう支援している。	職員は、利用者の馴染みの人や場所を把握し、知人が事業所へ訪ねてきたり、馴染みの場所へ出かける等、利用者一人ひとりの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は職員同士でも情報交換しながら見守っている。お茶の時間は職員も一緒にゆっくり会話をしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合はアセスメント、ケアプランなどの支援状況など手渡し、ご本人が混乱されないよう情報交換している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	積極的に入居者との会話を行い、一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。	利用者の表情や行動、しぐさ等から本人の思い等を推し測り、また声かけて希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者は、家族等から情報を得て本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に生活歴やサービス利用の経過等を専用の用紙に記入してもらっている。そのことを把握し、入居者や家族との会話でこれまでの暮らし方の補足を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの一日の過ごし方を理解し、ホーム内でもできるだけ今までに近い生活を実現できるようにしている。(趣味活動等) また、毎朝のバイタル測定や看護師のチェック等で心身状態を把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まず本人の状態を理解し、本人と介護計画を作成する。それを素に家族や必要な関係者と話し合いアイデア等を反映させ、介護計画として完成させる。	介護計画は本人、家族、職員等の意見を反映し、個別具体的に作成している。計画の見直しは3ヶ月に1回、行い、状況の変化により随時見直しをしている。介護計画作成後は家族等へ説明し、署名・押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンス等で職員間の意見を出し合い、情報を共有している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族には出来るだけニーズがあれば出してもらい、実現させるよう職員会議にかけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の学校や自治会と交流したり、近くのスーパーに買い物に行ったりし、地域との交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、提携病院である 病院に入居者全員のかかりつけ医がおり、本人及び家族の希望を伝えている。	本人及び家族等の希望を大切にし、今までのかかりつけ医や希望する医療機関での受診を支援している。受診時の通院助助や情報伝達の方法について話し合い、合意している。家族等の状況に応じて、臨機応変に支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定の数値や体調の変化等を看護師に伝え、病院受診や看護の判断を行ってもらっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者の状態等を直接訪問したり、電話したりし情報交換や相談を受けてもらっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについては、当ホームでは現在行っていない。重度化した場合は、入居時に家族と話し合い、出来る限りホームで生活してもらうようにしている。また、病院、他施設と連絡を取り、支援している。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針があり、利用開始時や折に触れて利用者や家族等へ説明し、同意を得ている。利用者本人の状態を見ながら、家族、職員、主治医で話し合い、方針を共有し、支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回消防訓練を行っている。また、定期的に救急の研修にも参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中及び、夜間を想定し、避難訓練、消防訓練を行っている。また、緊急連絡網に地区民生委員→町内会長→消防団班長と協力体制を築いている。	マニュアルを作成している。年2回、消防署の協力を得て消火訓練、緊急通報、避難訓練を行っている。地域住民に参加協力を呼びかけている。非常用食料・飲料水・備品を準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁されている時は、自尊心を傷つけないよう声掛けしている。	管理者及び職員は、内部・外部研修に参加し、利用者一人ひとりへの言葉かけや対応について、プライバシーを損ねない支援に努めている。テキスト・報告書等がある。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	帰宅要求が頻回にある方には、外庭へ出たり、買い物に行ったりと気分転換を図っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの中での会話は個々の会話に今日はどんなことをしたいのか、行きたいのかなど話しを取り入れ、希望に添って支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや入浴準備の時に、どの洋服を着るか、タオルはどれを使うか等、一緒に選んでいる。散髪やパーマは本人の希望どおり行い、その人らしさを保てるようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時に利用者の希望するメニューを取り入れ、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けを行っている。	職員と利用者は、一緒に準備や片付けを行っている。職員は、利用者と同じ物を同じテーブルで会話をしながら食べ、さりげなく見守り介助している。献立は、職員が利用者の嗜好を考慮して作成し、母体法人の管理栄養士がチェックしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排尿が少ない方には、水分補給を行ったり、嚙むことが難しい方には、刻みにしたりと支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアを行い、義歯の方は夜間預かり洗浄している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	申し送りにて1人1人の状況把握、排泄チェック表を確認しながら声をかけたり、誘導を行い尿意の無い利用者もトイレで排泄できるように支援している。	職員は、利用者一人ひとりのサインを把握している。排泄チェック表を作成し、パンツの種類を工夫し、排泄の自立を意識したケアに取り組んでいる。失禁の際は、本人の自尊心を傷つけないよう、さりげなく対応している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量やレクリエーションの中で運動を加えたり、散歩に出掛けたりしている。チェック表をみながら下剤の使用をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	月・水・金の午後より入浴。2人づつ入ってもらい、ゆっくりと入浴していただけるように支援している。	大まかな入浴時間等の設定はあるが、利用者一人ひとりの希望や状況等に応じて、いつでも入浴できるよう支援をしている。入浴拒否の利用者へは、タイミングを計ったり、声かけ等を工夫し、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝と思いききて来られた方には、時間を伝え安心してもらい、入眠を促し空腹の訴えがある方には、おにぎり等作り、満たしてもらい臥床してもらっている。夜、眠れない方には、日中のレクリエーション、散歩に出る等活动を増やしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の支持や薬表を確認して、服用方法等を全スタッフに伝達している。また、薬の変更時も申し送りで伝えるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理やクラブ活動等において、個人の能力を生かせる活動を見つけて、体調に合わせて行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人希望により、付き添って外出出来るように援助している。また、遠方や自宅等は家族と相談し、出かけられるように支援している。	利用者一人ひとりの希望や体調、天候等を考慮しながら、散歩や買い物、ドライブ、外食等支援している。季節の花見等、普段は行けないような場所への外出も家族と協力しながら支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者の家族より預かり、スタッフが管理しているが、本人が小遣いとして別に所持されている方もいる。買い物時は本人に渡し、支払を行えるように援助している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、その都度電話を使用できるように援助を行っている。手紙も家族と一緒に書いたり、家族へ出したりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節に応じた飾りつけを行っている。居室には、季節の花を生けたりされている方もおられる。温度もエアコンにより快適に過ごせる様に調整している。	共用の空間は、天窓があり明るく、壁には書初めや職員と利用者が協同で制作した干支の小物、花等を飾り、生活感や季節感に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテーブル（椅子）、ソファを 設置しており、お互いが気軽に話しが出来る ように配置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、本人とよく話し合い配置を行っている。 たんすや椅子等、昔から使用していた物 を持って来て居室に置かれている。	居室は、筆筒、テレビ、創作物、家族写真 等、利用者が使い慣れたものや馴染みのもの を持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫 をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置場所、椅子の強度等安全に使用 できる物を設置している。また、シルバー車 や車椅子を使用し過ごせる様にバリアフリー になっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない